会 議 録

1 会議名

令和6年度 第7回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

3 開催日時

令和7年3月25日（火）午後6時30分から午後7時55分まで

4 開催場所

新道地区公民館 多目的ホール

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員：池亀副会長、草間委員、越水委員、佐藤委員、杉田委員、千町委員、
田木委員、塚田委員、南保委員、船崎会長、山本委員、横田委員、
横山副会長、（欠席1名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【船崎会長】

- ・会議の開会を宣言

【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【船崎会長】

・会議録の確認：田木委員に依頼

次第2 議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

○審議の進め方の確認

これまでの研修は「歴史」を中心としており、委員の意見も歴史に特化したものが多く挙がった。この先は何かテーマを設定した方がより広い考えで意見を出しやすいと考え、前回から分野を絞り、新道区の「強み（良いところ）」、「弱み（苦手としているところ）」について意見を出し合いながら、「謎（わからないところ）」については今後の研修でそれを補うことにし、「強み・弱み」の整理をしながら、地域協議会の役割の一つである自主的な審議、課題解決策などを協議していくこととした。

○協議方法の説明

前回に引き続き新道区の「強み（良いところ）」、「弱み（苦手としているところ）」について、分野別に意見を出す。前は「歴史・文化」、「産業」について意見をいただいた。今回は「健康・福祉」、「子育て・教育」、「安全・安心」について意見をいただきたい。

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

(発言無し)

それでは、説明と発表までの進行を事務局へ依頼する。

○健康・福祉について

【渡邊係長】

「健康・福祉」に関し、「強み」もしくは「弱み」をカードに記入し、発表していただく。

【塚田委員】

健康では、上越総合病院と近くに中央病院と病院が2つあることが強み。福祉では、施設で働いている人から、仕事は大変だが給料面は安いと聞く。残念に思う。

【南保委員】

高田の郷地域包括支援センターが中央病院の近くにあり、新道地区を担当としているほか、民間の福祉施設が多数あることが強み。弱みは、特定健康診査の受診率が新道区

は 46.3 パーセントで、上越市全体で 5 番目に受診率が低い。

【山本委員】

健康については基幹病院が 2 つある。この他、稲田、とよば地区に開業医が多く、様々な診療科があり、とても安心できる。福祉についてはリボーンがあることぐらいしか分からない。福祉の実情がよく分からないので、機会があれば知りたい。

【横田委員】

基幹病院が 2 つあるのは強みだが、昨今言われている医師の不足、専門員の対応、経営の問題で、我々が個々に細かいことは言えないが、世界経済の状況から、これをこのまま維持できるのか不安。民間の介護施設はたくさんあるが、入所の希望と供給のバランスは取れているのか。費用もかかると思うので、もっと数が多くてもよいと思う。

【池亀副会長】

私が新道区に住み始めたときは個人医院が 2 つしかなかったが、今は新しい医院が多くできた。大きな病院へは原則、紹介状がないと行けないので、個人医院が多くできたことは安心感がある。介護に関しては、たくさん施設があるので、上越市全体で見れば、安心して任せられると考える。

【船崎会長】

新道地区は基幹病院が 2 つ、そして将来、健診センターができるので安心。基幹病院があることで、周りに様々な個人医院ができたが、南部の医院は高齢化が進み、後継ぎがいらないため閉める方もいる。中部と北部は分からないが、その点が心配。

安心・安全については、上越警察署が新道区にあることが強み。保育園が 4 つ、小学校も 2 つあることはよいが、子供が少なくなり、稲田小学校と富岡小学校がいつ一緒になるのか。もしかしたら、地理的な条件で富岡小が有田の方へ行く可能性もあり、そうになると新道地区全体として不安だ。

【横山副会長】

年々高齢者が増えていく。上越市全体がそうだが、新道区においても高齢化が進んでいく気がする。高齢者をいかに支援していくか、その対策が今後の私たちと行政の大きな課題になるのではないか。特に介護、医療の人材面、財政面をこれからどう工面していくのか、その辺りを行政と地域が連携して、工夫していかなければならない。

【草間委員】

新道区は基幹病院が 2 つあり、福祉施設も多くある。病院の近くに開業医も多く出来

ており良い状況ではあるが、大きな病院は即、受診できるわけではなく、福祉施設の入所は順番待ちというような状況。これは新道地区というよりも市全体の話になるが、そういうところが心配。

この他、私の町内も高齢化が進んでいて、鴨島町内会は3つに分かれたが、もしかしたら、また一緒にならなければいけない状況にもなりかねないというところが、残念な感じがする。

【越水委員】

稲田3丁目に新しく医院ができ、高齢者の方が結構受診されている。私の家族も周辺の開業医を受診している。私は福祉施設での勤務経験があるが、申し込めばすぐに入れると勘違いしている方が結構多い。デイサービスやショートステイは予約で入れるが、特養は申し込みをしても何年か待つことになる。その人の身体状態などを加味して優先順位が決まる。早く申し込んだから早く入れるというわけではない。利用料も、要介護度が高くなるほど上がる。そこを勘違いしている人が多い。

【佐藤委員】

かかりつけ医となる医院が点在しており、福祉介護施設ごとにサロン等のイベントもあり、活動も充実して展開されていることを強みと思う。ただ、昨今、介護職員が不足しているため、閉鎖している施設もある。建物があっても、支える側が不足している。

しかし、福祉事業関係者の方曰く、これからは介護施設が潰れていく。団塊の世代がピークを迎えて利用者が減少することにより、経営が成り立たなくなるとのこと。今ある施設も、弱肉強食になってしまうかもしれないことが危惧されている。介護士はすぐ入れるが、介護される側はなかなか入れないというのが実情。

【杉田委員】

すこやかサロンが稲田2丁目の会館とかも子会館で開催されている。稲田4丁目にはお茶の間クラブがあり、年間3回、高田の郷地域包括支援センターの講師を招いて、勉強会を開催していることが強み。

【千町委員】

基幹病院が2つあり、地区に開業医もある。なおかつ、福祉施設も充実している。その環境の中で、特定健康診査の受診率が上越市全体で下から5番目、46.3パーセントという結果が疑問。

【田木委員】

基幹病院が2つあることが強み。

○子育て・教育について

【渡邊係長】

次に新道区の「子育て・教育」について、同様に実施する。

【横山副会長】

今、若い親同士の話し合う場がない。特に、子育てについて話し合うネットワークを作ることが大きな課題。乳幼児の育て方のほか、今大きな問題になっている小中学生のSNSとの接し方について、苦心されている保護者が多くいる。あまり表に出てこないものでよく見えないが、大きな課題になっている。

【草間委員】

新道区に学校や保育施設が多くあることは誇れるが、子供がかなり減少していることが不安。町内会によっては、数年後には子供会の存続が危ういことが心配だ。

【佐藤委員】

三和区と新道区を比較すると、まず、新道区では2つの小学校がともにスクールバスを運行せずに通学できている。三和区は範囲が広すぎるのでスクールバス通学になり、児童が定刻に帰らなければならず、自由度がない。新道区は徒歩通学が成り立っている学校が2つもあるところが強み。弱みは、保育園の施設が老朽化しているほか、手狭な所があること。民間も含めて再編も必要。今、三和区では1地区1保育園1小学校1中学校となり、さんわ保育園は民営化された。まだ新しく、園児の多いところは民営化されるが、小さいところは老朽化しても民営化されないので、これは公的に再編に向かうのか。そういうところも含めて協議が必要だ。

【越水委員】

少子化による学校の統廃合が一番心配。福祉施設に勤務していた時、施設の向かいに宮嶋小学校があったが、廃校になった。山間部などの人口が減少し、街場に集中してきている。そういうことの対策も行政に考えていただきたい。

【渡邊係長】

参考までに、令和6年度当初の児童数は富岡小学校が94人、稲田小学校が293人。学級数は、各学年富岡小学校は1クラスずつ、稲田小学校は2クラスずつある。

【杉田委員】

稲田保育園、富岡保育園、なかよし保育園、子安保育園と保育園が近くにたくさんあ

るのが強み。

【千町委員】

どこも高齢世帯や空き家が増えている中で、鴨島 2 丁目町内会では、子供会を中心としたお楽しみ会や芋煮会などの活動を情報発信しているからか、昨年から今年にかけて若い世帯の家が 6 戸増えたことが自慢。

【田木委員】

私が子育てをしていた時は、体調の悪い子供を預ける施設がなかった。今は共働きが当たり前の時代なので、預かってくれる施設があると保護者が助かる。富岡に病後児保育室としてわかぐさ保育室ができ、そういう施設が上越市に増えてきているのは、良いことだと思う。

【塚田委員】

富岡小学校の児童数は 100 人前後。世帯数は増えているが、なかなか子供の数が増えない。富岡小学校も無くなりほしくないと思うが、危機感はある。

【南保委員】

新道区には認定こども園、乳児保育園、市立の保育園が多数あり、教育に関しては充実している。あとは県立看護大学。一つ寂しいのは、私が卒業した新道中学校が統合されて城東中学校になったこと。新道区の人口が増えていないのかと思う。

【山本委員】

私は稲田小学校に勤めたことがある。学校の周りは自然が豊かで、河川敷があり、商店街があり、鴨島の方に住宅街があるなど、いろいろな場所があった。大ケヤキに行くと四季の移り変わりが分かり、そういう学習素材がたくさんある。学校で行事を行うために協力依頼すれば地域の方が協力してくれて、人材が豊富。地域の建設会社の方にお話をさせていただいたり、北陸農業センターへ見学に行ったりなど、学習環境に恵まれていることを感じた。

【横田委員】

新道区は教育施設については充実しているが、小学校の放課後、例えば富岡小学校の金管バンドは、昨今の教師の時間外勤務等の関係もあり指導者がいないため、自由時間になることが多いと聞く。これは新道区に限らず大きな問題。児童たちがすぐに家に帰って、どれだけ人とコミュニケーションが取れるのか。過去には幼年野球の面倒を見るボランティアの人もいた。こういうことがどんどんなくなってきている。学習のほかに

人間同士のコミュニケーションをどう取るか、将来的に心配。

また、県道の拡幅の話が出たまま何十年も経っている。昨今の冬を見ると児童の通学路がとても危ない。町内会から要望してもなかなか難しい。何かあってからでは大変。

【池亀副会長】

今の居住場所を選んだ理由の一つは、小学校がとても近いこと。当時は団地の中に私の子と同年代の子供たちがいる環境だった。今は戸数が160戸ぐらいで、小学生が12人しかいない。一昨年暮れに新しく宅地造成があり、家が11戸建った。まだ小学校に行っている子供はいないと思うが、にぎやかで子供の声が聞こえることがとてもありがたい。さいの神に子供連れで参加してくれるので、今までにないにぎわいがあり、これからは楽しみ。子供がいることで地域が上手く回るということを改めて実感している。

【船崎会長】

昔は新道中学校があったが、城南中学校と統合し城東中学校となった。新道中学校があった頃は、富岡小学校と稲田小学校の児童と一緒に遊んだり、稲田や鴨島の児童が富岡の方へ遊びに行ったりしたものだが、疎遠になり、今は交流がなくなった。前期の地域協議会の自主的審議を踏まえ、地域の交流を深めようと新道地区活性化委員会ができたものの、学校統合についていずれ新道区でも審議することになるかもしれない。

○安全・安心について

【渡邊係長】

次に新道区の「安全・安心」について、同様に実施する。

【横田委員】

新道地区の北部には上越警察署があり、その近くに消防本部もあるので、見た目では安全がそれなりに確保されている。あとは個人で生活をどう守るかというところ。

災害では、関川付近が浸水するとしたら、どこにどうやって避難するのかということの問題提起したい。

【山本委員】

今年の冬も大雪だった。市道があまり広くないので、冬場の子供たちの登下校の安全確保が弱み。強みとしては、町内がみんな顔見知りなので、何かあったときはすぐに助け合えるので防犯上安心だ。

【南保委員】

上越警察署と上越消防本部があるので、一つの強みなのかと思ったが、北部は春日山

交番が管轄で、関川を渡りこちらに来るので不思議に思っていた。南部はというと、鴨島は上野田交番になり、分け方がよく分からない。

最近のゲリラ豪雨による関川の外水氾濫と同じく、内水氾濫が一番危惧される。一級河川の関川があるので、新しいハザードマップを見ると、新道区にはほとんど色がついている。どういうふうに避難するのか。北部の避難場所は富岡小学校、リージョンプラザ上越の順になっているが、リージョンプラザにも色がついているので、どうしたらいいのか、どうなっているのか、行政に聞きたい。

【塚田委員】

私は防災士で、新道地区に防災士会を立ち上げた。この中にも防災士が何人かおられるが、防災士の役割がいまいちはっきりしないので、見直していただきたい。

【田木委員】

安心だと思うのは、ニュースで報道されるような、クマやイノシシに出くわすことがないこと。三和区でも目撃情報があったと聞くので、そういうニュースを聞くと、新道区でよかったといつも思う。

【千町委員】

ハードインフラで大雨による内水氾濫が示されているが、5年前、新道地区全体の要望として、鴨島2丁目と3丁目の一部における大雨時の内水氾濫対策を市へ陳情した。古川用水が内水氾濫を起こしやすい。昔は、とよば、子安、子安新田の辺りは田んぼが多かった。ところが病院ができ、商店街ができたことで道路が舗装され、内水氾濫が起きやすくなった。古川用水は幅が1.5メートル、高さが3メートルあり、鴨島2丁目を經由して関川の樋門へ流れている。市に陳情したことで、来年にかけて大型排水設備の設置が決まった。今後は安心できるのか、工事が終わるのを楽しみしている。

【杉田委員】

この地域は今のところは大きな災害はないが、安心はできない。富岡小学校に避難される方は、特に冬場は大変だと思う。

【佐藤委員】

通学路が狭く雪道の通学路の確保が難しい。富岡線は電柱が点在していたり傾斜していたりするので、子供が車道に出てしまうことになり、かなり危険なのが弱み。これはきちんと行政の責任で通学路を確保していただきたい。また、通学路の周りに人がいることは、見守りの目があるということなので、これは強み。

2 つ目の弱みは、消防団の役割。消防団員は実際問題、職場から帰ってきてからでは 30 分以上経っているので、初期消火には間に合わない。啓発活動とパトロールのような活動しかできないという状況を把握してもらい、地域にある自主防災組織を整備していただくと、安心・安全につながる。

私は今年から 2 年間、上越警察署協議会の会長をさせていただくことになっている。そこで話が出ているのは、事件事故の件数は減少しているが、特殊詐欺が増えているということ。それから、補導は制服警官がわざと分かるように巡回する。そうすると、皆それで気を付ける。制服警官が巡回できるところは良いが、車でただ回るだけの地域ではなかなか細かいことができない。駐在所が上野田にもあり、新道区の巡回をよくやっておられる。そういうところを見ていただきたい。

【越水委員】

稲田 2 丁目からと 4 丁目から稲田小学校までは、稲田の交差点を渡り、井上冷菓と稲田 2 丁目の町内会館前を通過して、体育館の裏手から登校している。私が町内会長をしている時に、稲田の交差点をもっと広げてほしい、雁木があるところまでつなげてほしいなどと要望していたが、全然整備されていない。県道板倉直江津線の会合では、4 年間資料の写真が同じだった。何も調査していないということ。特に一番困っているのは稲田 1 丁目。雪が降ると圧雪になる。片方の用水路には雪を落としていない。グリーンラインが入っているから安全だと言うが、積雪で見えなくなる。調査は夏でなく、冬の一番悪いときに行くべき。そのことを市の担当職員は承知している。通学路は児童の安全確保が一番大事。これは私たち地域協議会委員もだが、県からも早急にやっていただければありがたい。良かったのは、エスピーガーリックの前が少し拡幅されたこと。

【草間委員】

通学路が狭く、道路自体もかなり痛みが激しい。こんな悪い道路はあまりないという所がとても多い。道幅が狭いせいか、除雪の行き届いていない所がかなり見受けられる。

また、うちはかなり古い団地なので、空き家が増えてきて、不審者の話も聞くので、とても不安だ。

それから、これから春になると子供たちが自転車に乗り始める。下手すると原付よりも厳しい罰則があるので、地区や学校でしっかりとルールを説明して、児童たちが気を付けるよう指導していただきたい。

【横山副会長】

私は災害時の避難場所の確保が課題だと思う。上越沖にも大きな断層があると言われていて、長期にわたる避難が強えられる可能性が考えられるので、これに耐えられる施設設備の充実について、これから考えていかなければならない。特に災害関連死やエコノミー症候群は、避難所の設備があまり充実していないが故に、寒さ等々で体が参ってしまうという話も多く聞こえてくる。施設設備の拡充も、これから視野に入れていかなければならない。

【船崎会長】

新道区の犯罪事件について、以前、防犯の講演の際に警察の方に質問したところ、一番多いのは万引きで、大きな商業施設があるのが理由とのこと。

災害、地震については、江戸時代に高田地震があり、昭和には新潟で、その後は中越と中越沖で発生した。今から40年前は松代群発地震があり、この前は能登半島地震があった。50年間隔でそろそろ来るのではないかと心配している。今、新道区でもあちこちの町内会が防災に関して講演会を開催しているので、皆さんも参加して下さい。

【池亀副会長】

県道については、私も同じ問題意識を持っている。非常に厳しい速度制限をかけているので、大きな事故にはなっていない感じだが、稲田の辺りが全然改善されていない。車も待っていないとすれ違えないような場所もあり、何とかしてもらいたい。

【渡邊係長】

今までの発言について、何か質問はあるか。

(発言無し)

今日の意見をまとめ、次回に示す。

次回は「環境」「都市基盤（ハードインフラ）」「情報・制度（ソフトインフラ）」「コミュニティ」について発表していただく。発表が終了したので、ここからの進行は会長にお願いします。

【船崎会長】

以上で、次第2議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次第2議題「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で、次第2議題「(2) その他」を終了する。

次に、次第3その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【井守副所長】

- ・ 次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・ 次回の地域協議会：4月22日（火）午後6時30分から
新道地区公民館 多目的ホール（予定）

【船崎会長】

以上で次第3その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第3その他「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

【小林所長】

- ・ 来年度の事務局の体制について報告

【船崎会長】

他に何かあるか。

(無しの声)

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。